

## 平成 29 年度八重垣神社祇園祭フォトコンテスト 総評・入賞作品講評

### ◆総評

今年も多くの方から応募作品が集まりました。62 名、173 点でした。先日、観光協会長さんはじめ市内写真館の館主、祭事委員長をはじめ 4 人で審査を行いました。今年も例年になく光を感じる作品や生き生きとした作品、違った視点から写し撮った作品が多くみられ、工夫をして狙った作品があり喜ばしい限りです。その中で観光に利用できて作品的にも優秀な作品を選んでおります。

祭りのスナップ作品でもカメラマンと被写体との距離感が近い、一体となった作品も多く見られ人を引き付ける作品につながっております。無心で夢中で感動しながら写していると思われれます。それだけに魅力的な作品につながっています。

最優秀賞に輝いた小高さんの作品「神事怒涛」は力強さと光を読んで利用した作品で水かけ祭りの姿もよく表した作品に仕上げました。良く被写体を知って写されました。良い作品につなげるには被写体を良く知ることが大事ということを教えています。

### ◆入賞作品講評

#### 最優秀賞 「神事怒涛」 小高 常志 様



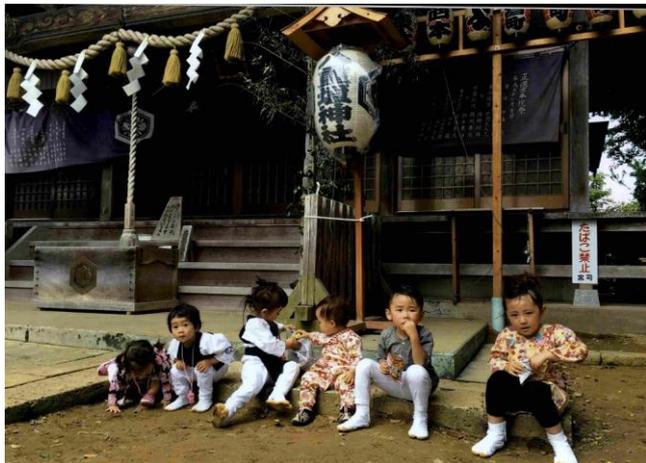
水かけ祭りの姿を望遠レンズによる圧縮効果を利用して迫力を感じさせるように、どの方向から写すのがよいか下準備をして写しているようです。それだけに光の美しさと水かけ祭りの姿を浮き彫りにしました。

作品作りでは光をどう利用して、光の状態を読んでいくかが大事になります。逆光線による光の美しさ、光を強く感じさせるすばらしい作品です。良く被写体を知り尽くして写している感じがよく伝わってきます。

神輿に覆いかぶさるように水が掛けられた瞬間を適正なシャッタースピードで写されていますので、水かけ祭りの光景を見事に表現されました。

## 優秀賞 「 匠瑳の宝 」 越川 亜由実 様

八重垣神社の前で祭りが行われるのを思い思いで待っている小さな子供達の姿を、神社を背景にしながら上手にフレーミングされました。それぞれの子供達の様子をよく感じさせて



います。良いタイミングで写し撮りました。将来の子供たちの姿に希望を感じさせる、八重垣神社祇園祭も安泰の光景でもあります。八重垣神社のちょうちんやしめ縄を入れたことで、より祭りの姿を感じさせる脇役をうまく利用されました。子供達の思い思いの姿が、より物語を感じさせることにつながりました。惜しむらくはカメラ位置を子供達を目線で写すことで子供達のより豊かな表情を捉えることにつながったと思われま

## 優秀賞 「 はいポーズ 」 片岡 政昭 様

俯瞰させることで祭りの雰囲気をより感じあせるように写し撮った作品です。神輿を担ぐ人達の生き生きとした姿も写し撮ることができました。視点を変えて祭りの姿を見せることで祭りの賑わいと湧き上がる姿を写し撮ることができました。手前の人達と周りに入れたことで祭りの雰囲気をより盛り上がった光景として写し撮られました。

作品づくりの基本として 3K があります。バランスの良い構図、写す角度、撮影距離を応用しながら写していくことは大事な要素と考えます。写す角度をうまく利用した作品です。



**優秀賞 「女神輿が往く」 中根 英治 様**

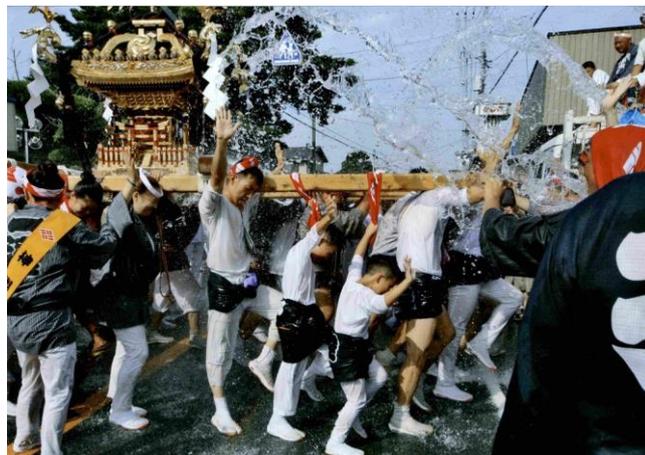


女性のパワーがはじけるような女神輿の姿を写し撮りました。女性達の元気さを良く感じさせることができた作品です。良いタイミングで写された作品でそれぞれの女性の姿に、祭りに参加した喜びを感じさせることができました。作品作りでは脇役から作品をより効果的に見せることができます。左右に女性の姿が入っています。この女性の姿も祭りの雰囲気盛り上げる大きな脇役として働きました。何をメインにして写すかが最も

大事ですが、脇役をうまく利用されたことで作品からより物語が感じられるように写されました。

**優秀賞 「親子揃って足踏み」 沼田 洋 様**

子供も女性も祭りにお参加している光景を、水掛けの姿を入れながら盛り上がった瞬間を写し撮った作品です。八重垣神社祇園祭が市民が一体となっていて行われている姿を良く感じさせる作品につなげました。水が掛っても負けじと夢中で神輿を担ぐ姿を良いタイミングで写し撮られました。やや静かな画面ですが、静かな中にも神輿を担いでいる人達の左足が上がったことで、人物に動きを感じさせる作品につなげられました。



## 優秀賞 「熱演」 菅谷 きぬ子 様



少年の凛々しい姿をしっかりとしたピンツトと斜光線を利用して、光を強く感じさせるように写し撮られた、強く目を引く作品です。作品から品格を感じ取ることができます。

少年の目が生き生きとして写し撮られていますので、作品により力が出た作品でもあります。

太鼓を叩いているのでしょうか？良い角度で写し撮ることができました。

首から下げたタオルから、熱演の姿に太鼓もボカしながら上手に入れたことで想像させる作品にもつながっています。背景も暗く少年をより浮き上がらせることができました。

## 入選 「小さな応援」 石井 克幸 様

小さな子供さんが大きな太鼓に向かって、自分も祭りに参加して盛り上げている姿で良く気づかれ写し撮りました。あどけない子供さんが無心でばちを持ち太鼓を叩いている微笑ましい作品で、祭りの光景の一端がよく伝わる作品です。

作品作りでは「きづき」が大事と考えています。気がつくかどうかで作品作りでは大事になります。何気ないところに良い被写体があることを教えている作品です。良く気がつかれてカメラを向けられました。また周りの人たちも上手に入れて写されました。しっかりと被写体を見つめて写されている姿がよく伝わってきます。



## 入選 「三姉妹」 高木 建 様

女神輿に寄り添うように祭りに参加している姉妹の姿を写しとりました。神輿を担ぐ女性達の豊かな表情を写し撮ることができた作品です。スナップ写真では人物の豊かな表情を写し撮ることが何より大事になり、人を引き付ける作品につながります、カメラマンがいかにか被写体との距離感がないように豊かな表情を写し撮っていきます。やや画面中心の妹さんの表情がより豊かであればとおしまれます。広角レンズで思い切って近づいてメインの被写体を大きく写しだしながら背景を入れることができ、奥行き感と祭りの姿を写し撮ることができました。



## 入選 「厳粛な朝」 青柳 幹市 様

境内で行われている祭りのスタート前の光景を素直に写し撮った作品です。祭りの一端を良く伝える作品です。参列している人達の凛々しい厳粛な姿が、空気感が伝わってきます。被写体を良く見ながら写しています。この光景を写し撮ろうと事前に考えて写しているようです。ここが一つの撮影ポイントと考えられて写された作品です。



八重垣神社祇園祭の全体像としての一枚、組み写真の一枚として利用できる作品になっていると考えます。

## 入選 「宮出し」 渡邊 良一 様



宮出しの様子を、神社の建物の美しさと石段を下りていく神輿の姿を捉えた作品です。よいタイミングで写し撮りました。先導していく男性や女性が入ったことで女神輿も行われる姿にもつながっている作品です。事前にこの場所で写そうとされていたのでしょうか。

望遠レンズで写していることで圧縮効果が出て強さを感じとることができました。

## 入選 「水掛け上手」 松本 隆信 様

一斉に水掛けが行われている瞬間をしっかりとピントとシャッタースピードで、神輿を上げた瞬間を良いタイミングで写し撮った作品です。迫力を感じさせる作品です。水の粒が画面全体を覆うように写し撮ることで水掛け祭りの雰囲気を書しだすことが出来た力作です。神輿を担ぐ男衆が神輿を上げている腕に力がこもった瞬間を撮った作品です。



作品作りでは光をいかに利用できるか、天気にも大きく左右されますが、より光が感じられる条件が揃うとより見応えのある作品につながったでしょう。やや画面が左右に分かれてしまったようにも感じます。

## 入選 「祭は楽しい」 北村 芳夫 様

良い表情をした瞬間を写し撮りました。人をすぐに引き付ける作品です。いかにも祭りに参加でき、嬉しさがよく伝わってきます。左右にいる人達の表情も同じように祭りを大いに楽しんで、参加している感じがよく出た作品です。スナップ写真はやはり表情が一番大事になります。一年に一度の祭りを待っていましたとばかりに祭りに参加した男集の姿を良く伝えることができた作品です。



## 入選 「お祭りデビュー」 林 勝恵 様



赤ちゃんを抱き抱えながらお父さんが子供と参加できたことに、とても喜び嬉しそうな姿を捉える事が出来た作品です。写真は写した瞬間から過去になります。この親子にとって貴重な瞬間を写し撮ることにつながっています。作者の思いがよく伝わる作品につながっています。赤ちゃんから大人までみんなが参加されているこの祭りの姿を良く伝えることができました。

フラッシュは使わずに写すのが自然光の美しさを引き出すことにつながりますが逆光線や光の方向によっては弱くフラッシュを発光されて写してもいいでしょう。

## 入選 「溢れる笑顔」 志賀 正義 様

祭りが楽しく楽しくてしょうがないという良い表情をした瞬間を写し撮った作品です。たくましい男性が女性を肩に乗せながら祭りに参加している、楽しさが溢れている姿に見物人も飛び入りでも参加したい衝動に駆りたてる作品です。神輿を担ぐ人達も笑顔で、待ちに待った祭りを楽しんでいる姿をうまく写し撮りました。左の男性にポイントを絞り、脇役として右側の男性が生きています。

もう少し水が掛った瞬間が捉えられるとより水掛け祭りの光景を写し撮ることにつながったでしょう。



## 入選 「盛り上がる二人」 岩下 信行 様

二人の女性とカメラマンとが一体となった、距離感が近い作品です。二人の神輿を担いでいる女性の表情が誠によく、良い瞬間を捉えた作品です。汗と水とで濡れた顔の表情に、こぶしに、手を挙げている表情から祭りをいかにも楽しんでいる姿が彷彿されてきます。ポイントを絞って何を写したかが分かるようにフレーミングしたことが成功しました。

声を掛けて写されているのでしょう。人の自然な表情がよく表れています。



## 入選 「華やかな女神輿」 磯部 博之 様



女神輿を担いでいる女性の逞しさを低い位置からフラッシュをたいて写し撮っています。片側 13 人の女性が逞しく神輿を担いでいる姿は、女神輿を良く伝える作品につながりました。女性達の良い表情を写し撮ることができた作品です。

ちょっと気になりますのが、フラッシュの光が強すぎることで右側の女性達が明るく写ってしまいました。露出がオーバーにならないように写したいところです。

周りの明るさにもよりますがフラッシュを使わずに写していくか、フラッシュの光の強さを弱く調光補正をマイナスにしていとも写していくか、外付けフラッシュ（ストロボ）であればディフューザーを利用して写していくのがお勧めです。



### ◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944 年山梨県生まれ。

1962 年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、オランダに 2 回、イギリスに駐在。

2001 年ニコンカメラ販売(株)（現(株)ニコンイメージングジャパン）に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004 年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真の通信添削を行っている。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001 年 7 月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006 年 10 月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数

